

2 卸売業事例

自治体との共同プロジェクトによる自製酒の消費拡大 （イベント等による認知度の向上）	13
----------------------------------------------	----

自治体との共同プロジェクトによる自製酒の消費拡大

卸売業事例

1 事業者の概要

AのB支店は、自製酒等の卸売を主体としている。

B支店は、C県の食料自給率が121%と高いことや食材が豊富なことに着目し、県産食材の認知度とブランド価値の向上を図るために、県と共同でプロジェクトをスタートさせた。

2 具体的な取組内容

本プロジェクトの名称には、「C県産品を食べよう」という趣旨が込められており、県産食材の魅力とブランド化に向けた取組を県と共同で実施することとしている。

まず、第1弾として、同社の外食グループ企業への県産食材の紹介を皮切りに同食材を活用した「C県フェア」の開催等を通じて県外の消費者等へ県産食材の情報発信を行った。

また、第2弾として、Aの得意先である県内の飲食業者に対し、県産食材を使用したオリジナルメニューの開発を提案するとともに、同社製品の新しい飲み方として「C県りんご酢ハイボール」の提案を行った。これらの企画は県内初の試みであり、マスコミに取り上げられたほか、県のホームページにも掲載された。

さらに、第3弾として、県内の家庭用向けに「酒・食コラボ」と題し、県内スーパー等の理解と協力を得て、売場での県産食材を使用した調理方法PRやギフトコーナー等での県産食材と同社商品との陳列を継続的に行い、同社商品のみならず県産食材の消費促進に寄与した。

今後は、第4弾の企画として、観光面で旅行代理店と連携し、県内への誘客とホテル等での県産食材の利用促進を支援しながら同社商品の消費拡大を図ることとしている。

3 取組の効果

プロジェクトの始動により、県内外での県産食材の認知度が向上し、また、県産食材を利用したオリジナルメニューと同社商品の新しい飲み方として提案した「ご当地もの」が、県内の約450の飲食店で提供されたほか家庭用としても静かなブームにあり、県産食材のイメージアップにも貢献した。

今後も、県、酒類販売業者及び飲食店と連携を図りながら、県産食材及び同社商品の消費拡大に向けて同プロジェクトを推し進めることとしている。